平成30年度　学校評価総括表　　伊丹市立伊丹幼稚園

教育目標			心豊かでいきいきと生活する子ども					
重点目標			1　一人一人に応じた環境を構成し、個性を生かす保育をすすめる。　2　友だちと共に伸びようとする仲間づくりを進める。 3　健やかな心と体づくりを進める。　4　家庭・地域社会との連携を図り、地域に開かれた幼稚園づくりに取り組む。					
項目		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
確かな学力の向上	自ら学び自ら考える力の育成	・自分の思いを伝え合う子どもの育成に努める。	・学級経営目標を年度当初に明確に設定し、思いを伝えたり、伝え合ったりする力の育成に取り組む。 ・公開保育や実践事例研究を行い、自分の思いを伝え合う力の育成を意図した保育を展開する。	・園での教育活動により、伝え合う力の育成ができたという評価が80%以上になる。 ・思いを伝え合う姿についての実践事例を短期指導計画の中に組み込み、日々の教師の援助について振り返り、検証していく。	A	・「人の話を聞く力や自分の思いや考えを言う力がついてきた」という項目についての評価が96%であった。教育内容についての理解が深まっている。 ・今後は実践事例を出し合ったり、園内研究会を実施したりする中で、思いを伝え合う力の育成のために意図的な教師の援助を実践していく。	・職員会議や研修会などを通してより教師の意図性のある教育が提供できるようにする。 ・園内研究会を学期に1回実施し、教師間で保育を見合い。資質向上を図っていく。また職員会議での話し合いを高める	・園内研究会や職員会議では、活発に意見交換ができるよう、良い点、課題となる点を互いに言い合う場を設けるようにし、共通理解をすることが必要である。
	直接体験を通して子どもが心を動かす保育の推進	・園の特色でもあるビオトープなどの園庭の自然物を取り入れた保育を工夫する。	・月1回ビオトープ研修会を実施する。 ・様々な草花や虫に興味をもてるような機会をつくり、保育室で生き物を飼育する機会を増やす。 ・畑や花壇で野菜や花の栽培を行い、季節を感じられる機会をもつ。	・ビオトープ研修会を月1回実施する。 ・自然を取り入れた教育についての評価を90%以上にする。	A	・月1回のビオトープ研修会を継続して行うことができた。自然環境への興味を示す子どもがアンケート結果では98%であった。 ・季節に応じて野菜や花の栽培を行い、収穫し、食する喜びを味わうことができた。今後も食育活動につなげていきたい。	・園の特色であるビオトープを活用した教育活動を引き続き展開していく。 ・今後も園庭の草花や栽培物など四季折々の自然に興味が持てるよう働きかけ、五感を通した直接体験ができるような環境作りを進めていく。	・環境づくりに子供と教師が主体的にかかわるようにし、環境づくりの具体的な内容を明確にしていくことが大切である。
豊かな心・健やかな体の育成	子どもの健やかな体づくり	・体力向上に視点をあてた保健活動を充実させていく。	・日々の遊びの中に、運動遊びを位置づけるなど体力向上に努める。 ・保健だよりや研修会の実施等を通して啓発を進めていく。 ・保健の話を基に、健康カレンダーを随時配布し、健やかな体づくりを進める。	・保健の話を月1回実施する。 ・保健活動の評価、体力向上の評価を80%以上にする。 ・外部からの専門の講師を学期に1回程度招聘し、楽しみながら体を動かす機会をつくる。	A	・アンケート結果では98%達成できた。 ・月1回の保健の話を実施し、健康な体づくりについて意識向上を図った。 ・保育の中での運動遊びや健康カレンダーなど、継続して取り組む。 ・講師を招聘した運動遊びを取り入れる。	・講師を招聘した運動遊びの活動を年間で計画していく。	・講師を招聘するなどして、定期的に運動遊びの時間を取り入れることで子供達も運動することが楽しみになる。 ・日々の遊びの中で4歳児・5歳児が一緒に体を動かしたり競争したりして楽しみながら運動できればと思う。運動会が良いきっかけになると思う。
	特別支援教育の推進・充実	・個別指導計画を作成し、実践、評価を進めていく。 ・特別支援に視点をあてた保護者懇談会を実施し、インクルーシブ教育を進めていく。	・個別指導計画を基に保育を進め、記録や話し合いを通して全職員で支援の方向性を共通理解する。 ・特別支援教育に視点を当てた懇談会を年3回実施し、保護者啓発を進めていく。	・個別の支援を必要とする子どもについての情報交換を月2回実施し、個別指導計画に基づいた指導を実施する。 ・特別支援教育に視点を当てた懇談会を年3回実施し、保護者啓発を行う。	A	・アンケート結果では98%達成できた　・個別の支援を必要とする子どもの実態に応じ、保育に努めてきた。今後も情報交換をすることで、全職員で共通理解を図り、教師間の連携を大切にしていく。 ・懇談会を2回実施し、保護者啓発に努めた。	・個別の支援を必要とする子どもについての情報交換を月2回実施し専門的な教育活動が実施できるようにする。 ・特別支援の懇談会については保護者啓発も考え、内容や時間を検討していく。	・個別の支援を必要とする子供と周りの子供の関係づくりや保護者同士の関係づくりのためにも、日々の保育、声掛け、保護者懇談会などで理解を深めることが大切である。
	人権教育の推進・充実	・保護者と連携して、自尊感情の育成に取り組む。	・人権についての意識を高める機会をつくり、保護者・幼児に啓発を行う。 ・人権教材「ほほえみ」「いたみっこおやくそくカード」などを必要に応じて活用し、自尊感情の育成に努める。	・人権教育に視点を当てた学級懇談会を年1回行う。 ・自尊感情の育成について、保育の中で工夫していることの情報交換を積極的に行う。	B	・自尊感情についてのアンケートにおいては96%の評価であった。 ・人権を尊重した教育活動の実践に取り組む。また、子どもの自尊感情を高める活動を意識して実施していく。	・日々の教育活動の中で教師の対応について、職員会議の中で必ず振り返り、人権意識を高める努力をする。 ・人権を視点とした学級懇談を年1回実施する。	・自尊感情を高めるためには、日々の家庭での大人の声掛けや対応が重要である。家庭では時間を決めて積極的に褒めたりコミュニケーションをとったりと、実践してもらってはどうか。
教師の教育力の向上	教職員研修の充実・人材の育成	・質の高い教育活動が行えるように個々の教師の力を育成する。	・質の高い教育活動に向けて、幼児理解を基盤とした保育のあり方についての話し合ったり、園内研究、共同研究を進めたりしていく。 ・教師それぞれが自己目標を設定し、個々の課題に向かって研修会に参加するなどして、専門知識を深めながら資質向上に努める。	・保育計画・幼児理解についての話し合いを週1回実施する。 ・園内研究会を学期に1回以上、共同研究園との交流を学期に1回以上実施する。	B	・幼児理解を基盤とした保育の大切さを感じ、保育実践に努めることができた。 ・園全体の教育の向上について意識をもち、教師同士がかかわり合って育とうとする意識をもつようにする。 ・職員会議や日々の話し合いの中で、意見を出し合い、幼児理解を更に深め、援助の在り方や保育について共通理解を図る。	・園内での研修の充実を図り、学期に1回の園内研修会を実施し、教職員の資質向上に努める。 ・共同研究会に積極的に参加し、教育内容等について学び合うようにする。	・話し合いや研究保育の場を計画されているが、その中で互いが自分の思いを言い合える雰囲気を作ることが大切である。
開かれた・信頼される園づくり	安全管理	・危機管理体制の整備を進める。 ・安全指導を進めていく。	・危機管理体制として、避難訓練や不審者対応・交通マナーを身につけるなどの指導を定期的に実施していく。 ・降園指導や交通安全教室などを実施し、意識を高めていく。 ・流行性疾病などの情報を伝え、早期予防を啓発していく。	・避難訓練を年3回、防災訓練を年1回、交通指導などの安全指導を月1回は実施する。 ・流行性疾患について、予防ができるように随時保護者に直接呼びかけをする。 ・園の教育や情報で安全意識が高まった評価が80%以上になる。	A	・避難訓練、防災訓練（引き渡し訓練）を実施し、非常時の安全指導を行った。　・警察と連携し、防犯訓練を実施したことで、防犯意識図ることができた。・月に1度降園指導を行い、登降園時の安全指導に努めた。 ・流行性疾患については季節ごとに「ほけんだより」を通して保護者に啓発することができた。 ・今後は訓練を通して緊急時の対応について職員間で共通理解を図り、事件・事故防止に努める。	・訓練等を通して、安全管理についての意識を今後も高めていく。緊急時の行動が的確にできるように訓練を実施していくようにする。 ・職員、子ども、保護者ともに交通安全に対しての意識を高めていく。 ・日常的な安全点検を行い怪我や事故を未然に防ぐ。	・毎月の降園指導は、子供にも保護者にも改めて日々の登降園で注意すべきことが確認でき、交通安全に対しての意識が高まるので引き続き実施してほしい。 ・緊急時に教師、子供、保護者がそれぞれ的確な行動ができるように今後も訓練などを定期的に実施してほしい。
	学校園情報の積極的な発信	・保護者への情報発信を工夫し、園教育への理解を図る。	・保育の内容を保護者や地域に発信していく機会をつくり、教育に対する理解を進めていく。 ・映像等を活用した懇談会や幼稚園だよりやクラスだよりなどを定期的に発信していく。	・園での教育内容を視覚を通して伝える機会を年3回実施する。 ・幼稚園の教育内容や家庭教育の啓発につながるたよりを月1回発行する。 ・HPの更新を月5回以上実施する。	B	・アンケート評価では、90%以上であった。 ・園児の様子を映像を通して伝える機会を年間2回、HP更新を月5回を目指して実施した。	・園の教育内容を理解してもらい、保護者と連携して教育活動が推進できるように、情報発信に引き続き取り組んでいく。	・今後も便りなどで教育内容を意図的に伝え保護者に理解してもらうことが信頼関係を築くためにも重要である。 ・子供達が行事などにどのように向き合ってきたのかを聞かせてもらうことで、子供達の頑張りや成長を感じることができる。
	保護者の関係の構築	・園内行事を通して子どもへのかかわりの機会を設定し、子育ての楽しさを共感し連携を深めていく。	・PTAが参加しているサークル活動の組織を活用し、園や子どもへのかかわりの機会を意図的につくっていく。 ・おやじの会を年4回に実施する。 ・誕生会の出し物を誕生児の保護者が行うようにし、保護者同士のかかわりが深まる機会をつくる。	・音楽会やお別れ会等に、サークル活動の発表の場を設け親睦を深める。 ・おやじの会を年4回実施したり、随時サークル活動を実施し、保護者間の連携が深まるようにする。 ・誕生会の出し物を保護者が毎月実施し、子どもへかかわる機会をつくる。	A	・保護者同士の関係は良好で評価も高かった。 ・子育て推進事業としての「おやじの会」についての賛同が96%であったので、今後も内容、回数等について検討しながら継続して実施していくようにする。	・保護者のサークルが活動する場の工夫（未就園児の会、参観日等）をすすめることとおやじの会（年4回）等の活動を実施し、保護者同士の関係づくりに今後も取り組む。	・保護者同士の関係も良好で活動も活発で良いと思う。 ・行事では内容や意図をしっかりと伝え、保護者の負担になり過ぎないように留意すべきである。
	子育て支援	・3歳児プレ保育「いちご組」を週2回実施し、幼稚園教育への理解を広げる。 ・預かり保育を実施し、子育て支援に努める。 ・地域へ子育て支援に関する情報の発信	・「プレ保育」「預かり保育」を実施し、子育て支援の充実に努める。 ・園庭開放、みんなのひろばなどの機会を生かして園の教育を伝える。 ・バースデートークを行い、どの保護者も日々の子育てを楽しめるようにする。	・週2回のプレ保育を実施し、親子活動の充実を図る。 ・預かり保育の必要性に応じた対応ができるようにする。 ・みんなのひろばやむっくむっくルームと随時連携し、園の教育を知ってもらう機会をつくり、子育て支援の評価が80%以上になる。	B	・3歳児プレ保育は、保護者の意見を聞きながら、子供の実態に応じた取り組みができるよう努めてきた。　・ 預かり保育は少しずつ利用者も増え、定着してきている。 ・子育て支援についての評価は94%～96%であった。	・来年度に向けてプレ保育等の内容を考え、さらに充実した子育て支援を行えるようにしていく。 ・バースデートーク（年12回）の内容を工夫し、子育て支援をさらに進めていく。	・3歳児と園児達の交流の場づくりに努め、互いが育ちあう場の保障をしていくことが必要（自由遊びの場等）
組織運営業務改善	業務改善	・園務分掌を責任をもって遂行し、業務改善への意識をもつ。	・園務日程を立て、計画的に職員会議や作業に取り組む。 ・園務分掌上の仕事に各職員が責任をもって取り組む。 ・定時退勤日を園務日程に位置づけ、超過勤務縮減についての意識を高める。	・効率のよい業務についての意識を高め、園務分掌についてそれぞれが責任感をもって、園運営に関わっていく。 ・月1回作業日を設定し、全職員で効率よく作業に取り組む。 ・職員会議を時間を決めて行う。 ・月1回の定時退勤日を実施する。	B	・園務分掌担当者が中心となって効率よく職員会議を進めるよう努めてきた。 ・職員の年休取得率を上げ、快適な職場環境をつくり、業務改善を進めていく。	・職員が園務分掌での役割を自覚し、率先して活動に取り組むように組織改善を進めていく。 ・行事の精選などを進め、教育活動がより充実するように内容を検討する。	・定時退勤日なども保護者に配布する予定表に記入して伝えてはどうか。

学校関係者評価総括

一人一人の子供に自立性などを保障していこうとする姿勢が、行事を通して見られる。今後も子供達を「ほほえみのまなざし」で見守り、他クラスの子供達とのかかわりを深めていくこと、教師が互いに意見交換がし合えるようにしていくことが必要である。

次年度に向けた重点的な改善点

3年保育実施に向けて、カリキュラムの検討を含め、異年齢の交流を密にし、関わりを深めていく必要がある。教師間の共通理解、保護者との連携を深め、引き続き幼児理解に基づいた保育内容や教師の支援を充実させていく。

自己評価の基準　**A**：目標を上回った　**B**：目標どおりに達成できた　**C**：目標をやや下回った　**D**：目標を大きく下回った